8/2 朝夜

戦争法案 絶対阻止へ連帯

学生・学者共同行動 9氏語る

7月31日、国会周辺であいついでおこなわれた「安全保障関連法案に反対する学生と学者の共同行動」。10代・20代の学生団体つくる「SEALDs（シールズ）＝自由と民主主義のための学生緊急行動」と、学者たちでつくる「安全保障関連法案に反対する学者の会」が手を取り合って、午後5時から8時すぎまで、集会、デモ、国会正門前抗議と多彩な行動を繰り広げました。集会では学生5人、学者4人がスピーチしました。その発言を紹介します。

平和主義僕らが守る

津田田人（けんと）さん＝神戸大院生、SEALDs KANSAI

戦争ができる国へと姿を変えようとしています。せにはなりません。これは誰かが言明していることです。だからこそ、人間は戦争という状況をつくらない努力をしていくことが必要です。

僕たちに求められているとは、戦後70年間、維持してきた平和主義を僕たち自らの手ですって守る立場です。

絶対に採決を強行させない、という状況をつくりだすことが必要です。法案に反対する国民の声を思います。

被災地から声あげる

斎藤健史さん＝東北大学2年、SEALDs TOHOKU

巨大な防潮堤問題など、民主主義の問題は地方でも起こっていると感じています。

今回の安保法制については、とても心苦しくて、とても心苦しました。ひたすら祈り続けるといいます。武力行使による「平和」です。しかし、武力によって救われた「平和」は本当の平和でしょうか。この法案は、平和と安全のために集団的自衛権を行使するという矛盾を感じました。

被災地は震災から4年を迎えようとしていますが、まだまだ努力がたっても復興は終わっていません。復興の仕方から声をあげたいと思います。そして東北も、地元住民の訴しに向き合わないままつくられた法案を認めるわけにはいかないと思います。

民主主義の産声聞く

岡野八代さん＝同志社大学教授

いま民主主義は瀕死の状態にあると思います。SEALDsのみなさんに心より連帯の意を表します。

われらには夢がある

奥田愛基（あき）さん＝明治学院大学4年、SEALDs

国会議事堂を見ていて、とても感動が立ちます。ま

戦争法案に反対して開かれた学生と学者の共同行動＝7月31日、東京都千代田区

が長い時間をかけてつくりあげた政治システムです。民主主義を破壊するものは、私を破壊します。民主主義をかけたたかいは、私をかけたたかいでもあるので、という声をあげています。

今日もまた「民主主義って何？」と、みなさんとコールしたいと思います。

剣取る者は剣で滅ぶ

桑島みくにさん＝横浜市立大学3年

「戦争のつくり方」という絵本を読んだ方は多いと思います。

「平和」のために自衛隊が武器を持って海外に出て行く、報道が政府の都合に使う、味方の国の戦争にお金を出す。そして、戦争に加担できると、以前話したみんなで感じていたが、この国民はだらずっとしました。

真の民主主義築ける

高山佳奈子さん＝京都大学教授

中国で反日感情が高まっているとの報道もありますが、なぜ反日感情が高まり、誰が高めているのか。ファシストが自頭すれば、反日感情が高まるのは当然のことといえます。

いま国民になっているのは、日本が戦後国家として新たな市民の方がたに、どういう社会をつくっていきたいのかを考えながら、活動を続けていきたい。

誠実な知性と想像で

千葉雅也（やすなり）さん＝明治大学専任

安倍内閣総理大臣、（らくいん）を押して、言をあげることで批判の意思を示すことは私たちの権利であります。

歴史な知性を用いて予想と向き合い続けること否定する、人間という知性を生かす（なりわい）とする私の職務なのです。世代をこえた団結し、安倍内閣を法案に反対します。必ず廃案にします。

主権者はわれわれだ

中野晃一さん＝上智大学教授

学生たちが立ち上がり、既存の市民運動、そして新たな市民の方がたが、「殺したくない、殺さない」という強固な意思を示すことは私たちの権利であります。

私たちが抱いている多くの人権を剥奪しようとする安倍政権の暴挙を許すわけにはいきません。

何が一番、希望を感じるかといいますと、学生の方がたも口を揃えて、一緒に声をあげましょうと呼びかけてくださっている、市民の方がたの声です。

被災3県大学人立つ

教員103人呼びかけ 有志の会結成

「安保関連法案に反対する学者の会」は7月31日、仙台市内で記者会見を開き、会の結成と賛同者の広がりを発表しました。

会見には呼びかけ人10氏が出席。同会事務局長の青井未帆・東北大学教授は「憲法解釈をめぐるこれまでの政権の態度に変え、9条の実質的な空洞化をはかるもの。

「知性と良識」を踏みにじっていることに強い危機感を覚える」と話しました。

東北大学の長谷川公一教授は「憲法解釈をそのときの政権が勝手ほか、討論会やデモ開催にもっとも適切な立憲主義の内閣」と呼べません。

同会は今後、インターネットを通じて賛同への賛同署名を集めるほか、討論会やデモ開催も計画しています。

大津でもシールズ関西

青年250人が街頭アピール

「SEALDs KANSAI」（シールズ関西）＝自由と民主主義を守れ＝が31日夜、滋賀県大津市の一JR石山駅前で取り組まれました。青年・学生など250人（主催者発表）が参加しました。

原門学校生の塩見博子さん（22）＝大津市＝は「少数派どころか、多数派の意見さえ無視されている」と訴えました。

「憲法解釈をめぐる政権の暴走を許さない」と話しました。

佐藤市長「9条破壊 認めぬ」

栃木・鹿沼市議に

栃木県鹿沼市の佐藤信市長は7月31日、定例市議会一般質問での答弁で、戦争法案（平和安全法制）について「戦争を始めるための法案だ。憲法9条の破壊は認めない」と語った9条改憲を明言しました。

佐藤市長は、集団的自衛権の行使を容認した昨年7月の安倍内閣の閣議決定について「歴代の政府見解を覆し、立憲主義や日本共産党の専門利統市民生活を脅かすものだ」と厳しく批判しました。

青年80人抗議集会

津「未来守る」と国会前連帯

「戦争法案反対！」「未来守る」と国会前連帯

関会前行動連絡組織「シールズ関西」が7月31日夕、三重県の津市中心部で開かれました。約80人がドラムに合わせて「戦争法案絶対反対」とコールを繰り返しました。

主催者を代表して南部市九条の会の斎藤正さん（44）は「政治に関心がなかった私が、何かおかしいと思ってツイッターなどで情報を集めました。安倍政権は憲法の適用をねじまげようとしている。このままほっておいてはあかんとやっと感じ」と語りました。

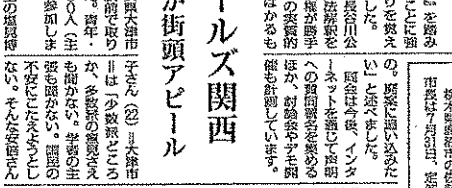
東京での行動にも参加した津市の翻訳業の（24）は、「関会前に集まった人たちのスピーチに勇気をもらった」と話し「これからは自分の意見で思いを伝え、未来を守る活動をしていきたい」と決意しました。

心一つに市民集会

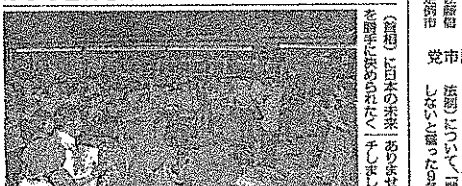
山形・南陽市

山形県南陽市で「戦争法案反対！8・1戦争法案を廃止へ！」に立ち、圧倒的多数の国民が法案の廃止を求めている安倍政権の戦争法案に反対する市民集会が開かれ、170人が参加しました。

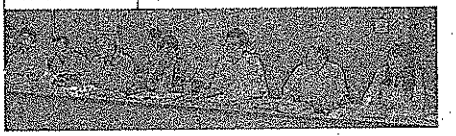
集会では、「戦争法案絶対反対」と書いたプラカードを掲げ市内をパレードしました。

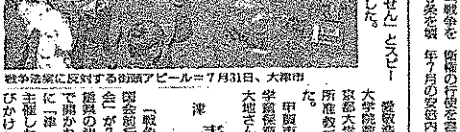


戦争法案に反対するデモ＝7月31日、大津市

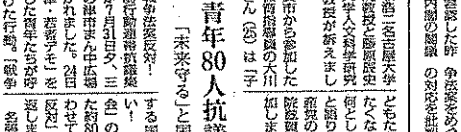


戦争法案反対を掲げて被災三県の大学教員で結成した有志の会＝7月31日、仙台市

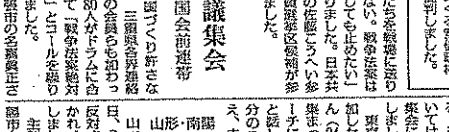




戦争法案に反対する学者の会の記者会見＝7月31日、仙台市



戦争法案を廃案にしようと呼びかけながらパレードする市民＝1日、山形県南陽市



ました。

山形県九条連絡会の高木健一会長が「廃案のあいさつをしました。

リレートークで市民6人がスピーチ。廃案まで頑張ろうと述べました。

集会には、白岩孫夫

南陽市長からメッセージが寄せられました。また、南陽会から日本共産党の佐藤朗市議をはじめ3人が出席し紹介され、8・1戦争法案に反対する市民集会アピールを採択しました。